

芸術新

Geijutsu Shincho

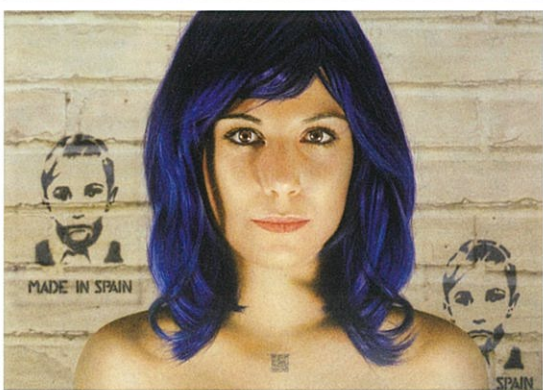
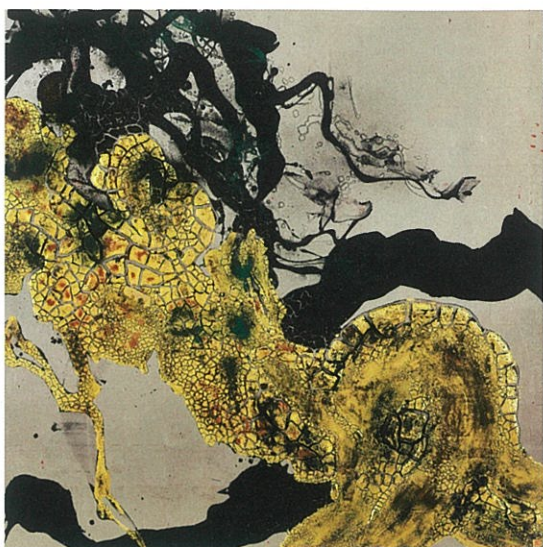
March 2019 **3**

女たちの 美術

【特集】

Female Artists

アートに生きる!



上/菅原健彦《臥龍の松》2018年
岩絵具・金箔・プラチナ箔・松煙、和紙 150×150cm
中/吉川民仁《清泉の岸》2018年
油彩、カンヴァス 112×146cm
下/ロレンツォ・フェルナンデス《El código》2017年
油彩、ボード 70×100cm

ギャラリー ためなが

galerie taménaga

出展ブース

G58

今年、開廊50周年を迎えた洋画商の未来志向

1

1969年、東京・銀座にオープンした「ギャラリーためなが」は、今年、開廊50周年を迎えた。芸術の国フランスと日本の架け橋となるべく、71年に日本の画商として初めてパリにも画廊を開設。この半世紀のあいだに、まだ無名だったアイズピリヤコタボ、カシニョール、ギアマンといった多くの洋画家たちの作品を日本に招来し、彼らを確固たる地位にまで高めたのは、この画廊の力による。そしてその活動は、フランスを中心としたヨーロッパだけではなく、今やアメリカ、アジアへと拡大している。

ここ数年は、そうしたグローバルな視点でアートフェア東京に出展し続けている同画廊だが、その展開力は、今回も健在だ。国内からは、樹齢千年を越える名木を題材に大胆な構図と色使いで圧倒的な存在感を表現する菅原健彦（1962年生れ）と、風や光の様に触発された視覚では捉えきれない感覚を、繊細な色調とさまざまな筆致で描き出す吉川民仁（1965年生れ）の2人が新作で参加する。

同じく新作を引っ提げて出展するのは、昨年初参加で好評を博した天津出身のチェン・ジャン・ホン（1999年生れ）。中国伝統の水墨技法を駆使したしなやかな画風が持ち味だ。

ハリウッド生れのアメリカ人、トム・クリストファー（1952年生れ）は、様々な人種が行き交うニューヨークの日常を高輝度の色調と大胆な筆致で描き出す画家である。昨年はモノクロームの作品で新境地を見せてくれたが、

今回、さらなる展開に注目したい。最後は超リアルな油彩画で注目を集めるマドリッド出身のロレンツォ・フェルナンデス（1970年生れ）。14歳から伝統的な絵画技法を学んだという彼の超絶技巧には誰もが驚くだろう。個性的なこの5名の作品が、会場でどう響き合うかも見どころである。

information

住所●東京都中央区銀座7-5-4
電話●03-3573-5368
開廊時間●10:00～19:00
(日・祝日は11:00～17:00)
休廊日●無休
アクセス●東京外口「銀座」駅より徒歩5分
URL●tamenaga.com